

CASE 06

事例紹介

Advance Pro (食品卸向け パッケージシステム)

食品卸売業向けの品質管理保持期限の管理機能を有し、顧客からの問い合わせへの対応や事務作業の効率化・物流コストの削減等を可能にしたパッケージシステムです。

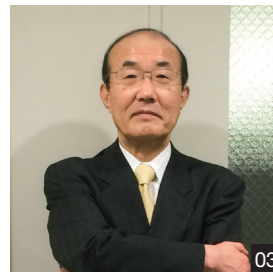
デザインマネジメントに取り組み始めたきっかけ

当社は食品卸向け物流システムが主力製品です。製品としてはすでに完成しており、機能等の見直しは不要と考えていました。「パンフレットなどの“見た目”のところで支援してもらえたら」という思いで、(一財)さっぽろ産業振興財団(以下、さっぽろ財団)の事業に応募したのがきっかけです。

「人に優しい」製品開発

デザイナーと話すうちに、製品を開発する際の考え方やコンセプトを追求しなければ、“見た目”も十分に検討できないことに気づきました。

実は、対象のシステムはリリースから10年経過していたため、ユーザーインターフェース(UI)や開発環境を今の実情に合わせる必要がありました。そこで、製品のコンセプトを再確認し、機能面のリニューアルを検討す



るために、デザイナーに協力いただくことにしました。新しい製品開発のコンセプトは「人に優しく心地よさを生むUIと機能を充実させて、顧客満足度を高めることにより、笑顔あふれるオフィス環境を創造する」としました。

追加機能を検討する際には、コンセプトを念頭におきつつ、「こういうものが欲しかった」という使用者の“ウォンツ”を捉えることが重要でした。

使用者が正常に色を識別できる人だけとは限らない、ということを開発時点で想定できれば、画面表示で選ぶ色彩が変わります。開発者本位で考えると、製品の機能は他社とあまり変わらないものになりますが、「お客様視点」を取り入れることで、今までになかった発想が出てくるようになりました。

また、開発のメンバーには、営業とシステムエンジニア(SE)双方に入ってもらいました。営業はお客様から直接ニーズを聞いていますし、SEは技

術的な面から、その機能が付加できるか判断できます。意見を出し合いながら決めていく中で、新しいものをつくる議論の楽しさも感じられました。

開発プロセスに現れた変化

さっぽろ財団の支援事業を経験したことで、議論の回数が増えました。「誰かが代表で考えて指示して進める」という従来のやり方から、「全員の合意を得た段階で次に進む」というやり方に変わっています。対立した意見が出た場合も排除せず、オプション設定やカスタマイズで対応するようにしました。

現在もシステムの開発は続いており、その内容については、社内で情報共有しています。担当ではなかった人にも考え方を理解してもらい、今後の開発案件にも役立てたいと思っています。

01 販売管理システム「Advance Pro」の操作画面
02 製品開発過程の様子
03 代表取締役社長 高澤 幹雄氏

Company Profile

株式会社アイパス



所在地：札幌市中央区南1条東3丁目10番13号(本社)
東京都中央区湊3丁目5番10号 セントラル新富町ビル5F(東京オフィス)
TEL：011-241-8601(本社) 代表者：代表取締役社長 高澤 幹雄
資本金：3,000万円 設立：平成9年(1997年)
主要事業：■コンサルティングサービス/システム導入時の調査・分析、コンサルティング、システム提案 ■システム構築サービス/設計、スケジュール管理、導入計画、オペレーション始動、運用管理 ■システムソリューションサービス/インターネット、グループウェア、ナレッジサーバ、データウェアハウス ■システムサポートサービス/ヘルプデスク、リモートメンテナンス、緊急時対応
URL：http://www.ipas.co.jp/

Supporting Organization

一般財団法人さっぽろ産業振興財団
所在地：札幌市白石区東札幌5条1丁目1-1
TEL：011-820-2062

“したい”を支える相談場所。
ビジネスに関するさまざまな「したい」を「できる」に近づけるため、あらゆる方法でお手伝いします。
「デザイン活用型製品開発支援事業」

札幌市内の中小企業のブランド力を高めて、価格競争に陥らない売れる製品開発を支援するため、マーケティングやブランディングなどの専門家を派遣する他、ワークショップ等を開催します。